

海、山、里の名物と、美しい風景、名所もいっぱい

家康公もお気に入り? ふじのくに名物いろいろ



【駿府匠宿】静岡市

今川、徳川時代から受継がれた静岡市の伝統産業と歴史をテーマに、静岡ならではの生活文化を体験できる施設。「漆器」「和染」「竹細工」などの製作体験ができる。



●お問い合わせ
静岡市駿河区丸子3240-1
☎054-256-1521
開場時間/9:00~17:00
(各体験工房のお申込みは16:00まで)
休場日/年末年始(12/30~1/1)

【焼津弓道具】焼津市

今川時代、甲斐武田氏の家臣が静岡に転居して矢師を始めたこととされる。その後、この一帯は徳川幕府の直轄地となり、幕府は平民にも弓を持たせ、時折神社などに人々を集め競いあわせ、天下の大事に備えていたという。



なるもの 匠

しず はた やき 【賤機焼】静岡市

三方ヶ原の合戦の後、太田七郎右衛門という人物が、家康公の無事と勝利を祝い外は鬼、内に福を模した盃を献上したところ、家康公は大いに喜び、賤機焼の称号を与えたことが始まり。



し と ろ やき 【志戸呂焼】静岡県島田市

1588年(天正16)、家康公が遠州志戸呂(現在の島田市志戸呂)に住んでいた陶工たちに焼物免許の朱印状を発給している。今も、志戸呂焼を伝承する窯元がある。



【安倍川餅】静岡市

駿府城にいた大御所時代の家康公に献上され、その美味しさを気に入り、安倍川上流部にあった金山にちなんで『安倍川餅』と命名したと伝えられている。今も静岡のお土産として人気だ。



【お茶】静岡県各地

静岡県の代表的な名物の一つで、家康公も愛飲したという。栽培される地域によって味わいも異なる。牧之原台地のお茶畑に囲まれて建つ「お茶の郷(さと) 博物館」なら、お茶の文化歴史を学ぶことができる。

●お問い合わせ
[お茶の郷 博物館]
島田市金谷富士見町3053-2
☎0547-46-5588
開館時間/博物館・庭園 9:00~17:00
(入館は16:30)
休館日/毎週火曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12/29~1/1)



【大福寺納豆・浜納豆】

浜松市

大福寺納豆は、浜名湖北にある大福寺(浜松市)で製造されており、家康公も献上の頃になると待ちわびていたとか。大豆を発酵、味付したのち乾燥させて香料を加えた保存食で、独特の風味がクセになる。その後、「浜納豆」として遠州各地に伝わった。浜松市内のお土産屋で手に入る。



【とろろ汁】静岡市

家康公が好んで食したといわれるとろろ。同じく、家康公が健康食として好んだ麦飯。麦飯にとろろ汁をかけた「とろろ飯」が今も東海道の丸子宿(まりこしゅく)の名物として伝わっている。



【酒】静岡県各地

戦国時代から江戸時代の初めにかけて江川家で造られた「江川酒」は、北条早雲や徳川家康公に献上されていた。家康公はその美味しさを賞し、井桁(いげた)に菊の由来となる野菊の紋を与えられたと伝えられている。近年、この江川酒が地元の有志によって復活し、味わえるようになった。このほか、静岡各地には歴史ある酒蔵も多い。



6月の田植えの様子

しぞ~か 【静岡ちらし】静岡県各地

家康公が三河から教え伝え、向井水軍が伊勢から持ち帰ったとされる混ぜ寿司をイメージして作られた。駿河湾、近海の旬の海の幸がたっぷり載った「静岡(しぞ~か)ちらし」は、ご当地グルメとして人気だとか。県内各地のすし屋で食べられる。

●お問い合わせ
☎054-255-7148(静岡すし組合)



なるもの 美味



おりど 【折戸なす】静岡市清水区

折戸なすは、徳川家康が愛したナス。「一富士、二鷹、三茄子」という説もあるほど。しばらく途絶えていたものの、近年、静岡市清水区三保・折戸地区で復活、栽培されるようになった。5月中旬~12月頃に、地元の大手スーパーで購入できる。

●お問い合わせ
☎054-367-3200(JAしみず)